

3. 今後の調査検討方針について (H16年度の予定)

3-1 現地調査計画

平成 16 年度は、上述の課題に対処するために次の調査を実施する。

表 3-1 平成 16 年度現地調査項目

区分	調査項目	調査内容	目 的
全体計画 関連	オソベツ川 周辺環境調査	植物相調査	釧路川上流地区旧川復元計画(案)の基礎資料とする。
	旧オソベツ川 横断測量	横断測量 現地踏査	河道状況の資料が存在しない旧オソベツ川の横断測量を 1km 毎に行い、現地踏査と合わせて旧オソベツ川の状況を把握する。
施策効果 予測	リファレンスサイト調査 (動物)	落下昆虫調査	魚類生息に係わる河畔林の機能について、物理的環境の側面だけでなく、 生物的機能の側面について明らかにするために、魚類の餌として重要な落下昆虫について調査する。また、蛇行復元後に必要な河畔林配置計画策定に資するための資料とする。
	地下水調査	水位観測 水理地質調査	観測網(自記水位計 14 地点, 量水標 6 地点, オガー観測孔 9 地点)の月 1~2 回の継続的な水位観測をおこない、水位分布の経時変化・季節変化を把握する。ボーリング調査により新水路~旧川付近の帯水層の 3 次元構造と水理地質特性を把握し、 3 次元浸透流解析のモデリング をする上での基礎地質資料を作成する。
	洪水時痕跡水位・ 堆積土砂厚調査	痕跡水位 土砂堆積厚	洪水時の痕跡水位と土砂堆積厚より再現計算を行い、 モデルの妥当性を検証する。
	モニタリング調査 地点の再測	植物群落調査 毎木調査	蛇行復元効果のモニタリング用に植物の固定調査区を設けたが、設置が平成 11 年及び 12 年と、4 年が経過した。そこで、現状における樹木の成長量を把握するために、 直径の再測定を行い、モニタリング資料の充実を図る。
施工計画	釧路川右岸盛土上 の環境	植物相調査	右岸盛土撤去時の施工方法に資するため、 考慮すべき自然環境について把握する。
	試験ヤードにおける 植生の回復	植物群落調査	冬季施工時における、 雪道の植生保護に対する有効性について 現地調査を行って検証する。

3-2 解析・検討方針

H16 年度の検討は、オソベツ川と茅沼地区(釧路川本川)全体の旧川復元計画を検討し、当面の茅沼地区の旧川復元における実施計画案の作成を行う。

表 3-2 平成 16 年度検討項目

区分	検討項目	内容
全体計画	複数案比較検討	オソベツ川旧川部の周辺環境調査、河道特性調査分析を基にオソベツ川旧川を含む 釧路湿原上流部の全体計画 を作成する。
当面の 計画	直線部河道処理法の決定	地下水解析~植生予測結果より 直線部河道の処理法 を確定する。
	旧川復元河道の河岸処理対策	流出土砂対策、JR 線の保護等のための 河岸保護対策 を検討する。
	旧川切替流入部形状の決定	切替部の 流入部形状 を確定する。
施策効果 の予測	湿原植生の再生	氾濫・冠水頻度の計算結果と地下水の応答変化(3 次元非定常解析)の関係を明らかにし、更にそれらの結果より、 植生の応答変化を予測 する。
	湿原への土砂流入の軽減	下流湿原部への浮遊砂流入量 について、現状・旧川復元後について明らかにし、その効果量を示す。
	生物の生息生育環境	魚類の生息環境について、直線河道と蛇行河道の違いが明瞭ではないので、 落下昆虫に着目した調査 を実施し、 生物の生息環境評価と定量化 を目指す。
施工計画	全体施工計画	前年度の試験施工並びに河道計画に基づき 全体施工計画 (旧川・直線部・右岸残土)を立案する。
	残土処理計画	掘削土の置土箇所 についての検討を行う。

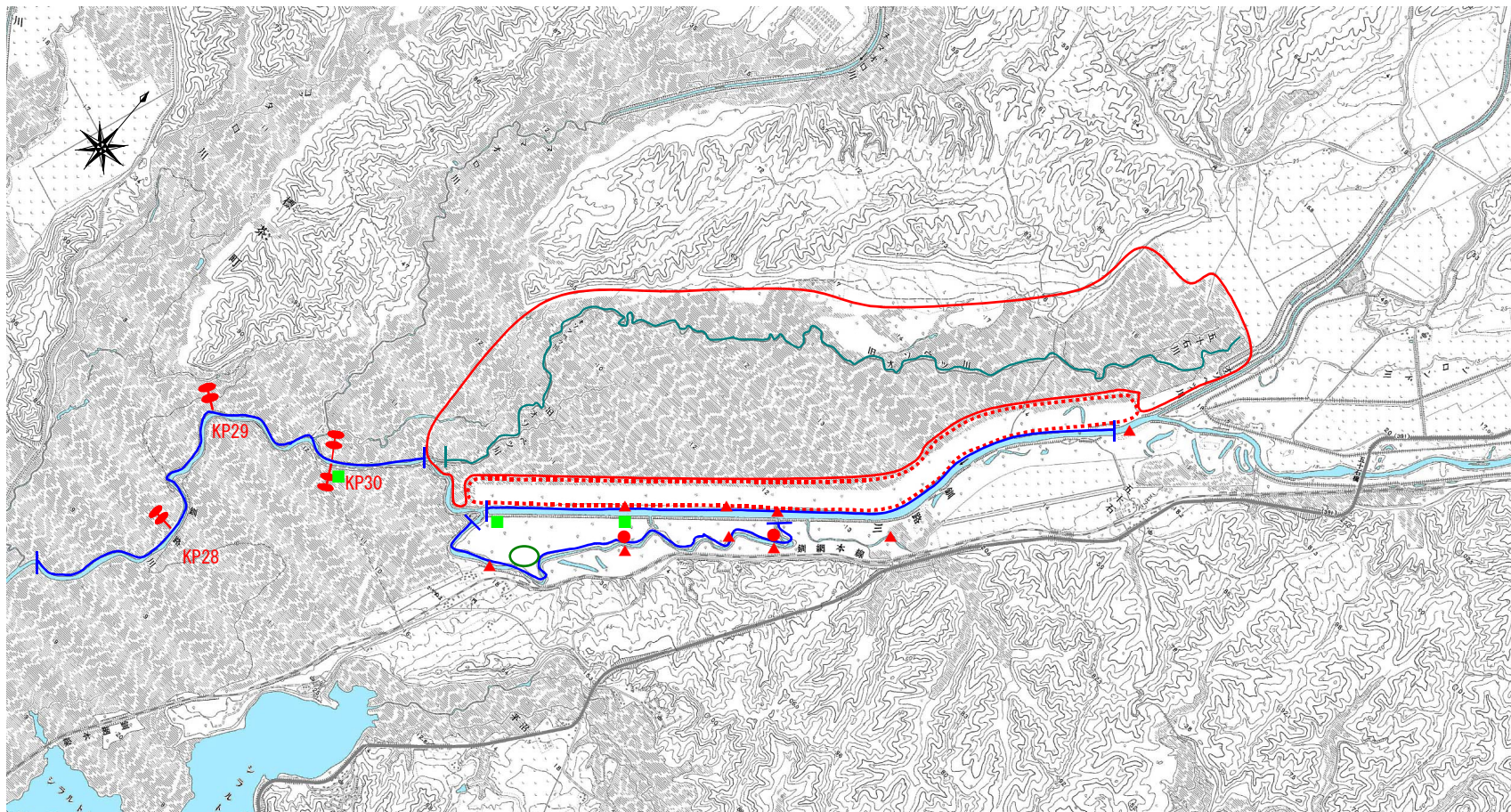


図 3-1 平成 16 年度調査箇所図

凡 例	
●	旧河道魚類生息環境把握
└─┘	落下昆虫調査
▲	モニタリング調査地の再測
○	試験ヤードの植生調査
▭ (dashed)	右岸盛土部生物相調査
▭ (solid)	オソベツ川周辺植物分布調査
●	リファレンスサイト地下水位観測孔
└─┘	旧オソベツ川横断測量、踏査
■	洪水時痕跡水位・堆積土砂厚調査